

City Life NEWS

全国で注目される施策や課題は、地域で暮らす私たちにどう影響するのか?身近に起きた出来事やトレンドなど、幅広い分野のニュースを紹介していきます。ネットでもさまざまなニュースを紹介しています。



シティライフNEWS で検索

北摂各市でも検討中 小中学校でのスマホのルール

今 年3月、大阪府教育委員会が策定した「小中学校における携帯電話の取扱いに関するガイドライン」が発表された。

登下校中に保護者と連絡をとる手段として、携帯電話(スマホ含む)を持つことができるというものだ。地震などの災害や予期せぬ緊急事態時に、安否や所在を確認する手段として、携帯電話は役に立つ。だが、学校への携帯電話の持ち込みが禁止ならば、登下校中に持つことができない。そのルールを一部解除するという内容だ。

これは、学校で携帯電話が使えるように

なるということではない。ガイドラインでは、学校内での使用は引き続き禁止で、所持する場合は電源は切り、カバンに保管すると定められている。また、北摂各市でも自治体や学校ごとに検討して2019年度中にルール作りを目指している。

携 帯電話(スマホ)の持ち込みが許可されれば、こっそり電源を入れての使用や、盗難などのトラブルももちろん考えられる。LINEなどのSNS上でのいじめが深刻化していることも指摘されている。学校側の負担が増え

便利な反面、SNSなどを通じて見知らぬ人とつながる危険性もある。今からスマホを持たせる家庭でも親子でしっかりと話し合う必要がある。



ば、それは結果として生徒たちの学びの環境を悪くすることにもなりかねない。

スマホゲームを含むゲーム依存症やスマホ画面の見すぎによる急性斜視など、急速なスマホの普及による弊害も報告されている。学校への携帯電話の持ち込みが解除されても、メリットとデメリットを考えて、慎重に判断する必要があるだろう。家庭での使い方は、未成年に有害なサイトやアプリを制御する「フィルタリングサービ

ス」の設定や、使用時間を決めて夜間は保護者に預けるなど、保護者と子どもが一緒に話し合って決めることが大切だ。

ガ イドラインではGPS機能や、犯罪に巻き込まれそうになった場合の連絡手段としても携帯電話が想定されている。登下校中の安全のために地域で出来ることは何かなど、みんなで考えていく課題となりそうだ。

東京2020オリンピック聖火リレールート決定 北摂5市もルートに

い よいよ来年にせまった東京2020オリンピック。ギリシャ・オリンピアの太陽光で採火された炎を、ギリシャ国内から開催国日本へつなぐ聖火リレーが行われる。コンセプトは「Hope Lights Our Way / 希望の道を、つなごう」。121日間をかけて日本全国47都道府県を巡る、そのルートが決定した。

まずは東日本大震災から10年を迎える被災地で「復興の火」として展示され、2020年3月26日に福島県「ナショナルトレーニングセンター」 ヴイレッジ」からスタートする。大阪府に聖火が到着するのは10番目。4月14日(火)~15日(水)の2日間で北摂の5市を含む10市を巡るリレーが行われる。

1日目は堺市からスタート。今年7月に世界文化遺産登録を目指す堺市の「百舌

鳥・古市古墳群」。日本一有名な前方後円墳・仁徳天皇陵がある。その後ラグビーワールドカップ2019日本大会の会場となる花園ラグビー場のある東大阪市、北摂の各市町をリレーし、1日目の最後は吹田市の万博記念公園・お祭り広場で聖火到着を祝う「セレブレーション」を実施する。セレブレーションでは、様々なステージプログラムや聖火リレーパートナーの展示ブースのほか、1日目の最終聖火ランナーが会場に登場し、聖火を聖火皿に灯すセレモニーが行われ



る。セレモニーの詳細はまだ決まっていないが、吹田市では「時間が持てれば何か地元の特徴が出せるような企画をしたい」と期待をふくらませている。

聖火はランタンに格納され、翌日スタート地となる泉佐野市に車両で移動する。

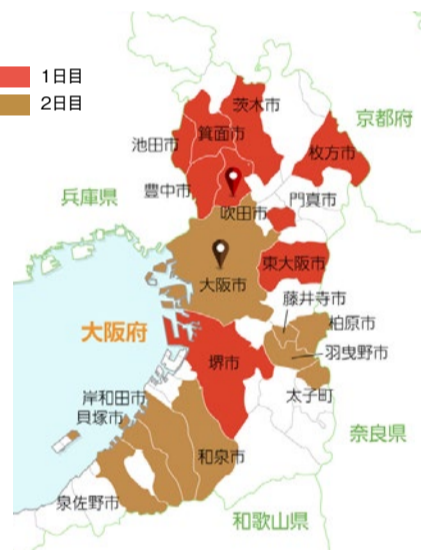
翌15日(水)は、泉佐野市から南部の各市町をリレーし、大阪府に到着、歴史のロマンあふれる大阪城天守閣を配した大阪城公園などを巡り、中之島公園・大阪市中央公会堂前でセレブレーションとなる。(ルート概要、実施市区町村とその順番、セレブレーション会場など(特に実施市区町村の順番)については、今後変更となる可能性あり)

聖火ランナーの一般公募も受付中だ。

【1日目】 | 4月14日[火]

堺市 → 東大阪市 → 門真市 → 枚方市 → 豊中市 → 池田市 → 箕面市 → 茨木市 → 吹田市

📍 セレブレーション会場
吹田市
大阪府日本万国博覧会記念公園 お祭り広場



6月中旬より東京2020オリンピック聖火リレープレゼンティングパートナーの4社を通じて、また7/1(月)からは各都道府県実行委員会にて応募可能。

【2日目】 | 4月15日[水]

泉佐野市 → 貝塚市 → 岸和田市 → 和泉市 → 太子町 → 羽曳野市 → 藤井寺市 → 柏原市 → 大阪市

📍 セレブレーション会場
大阪市
中之島公園 大阪市中央公会堂前

「千里セルシー」が5月末で閉館 今後の再開発は検討中

1 972年、千里中央に誕生した商業施設セルシー。「千里セルシー」として親しまれていたが、2019年5月31日をもって閉館となった。これに伴い、6月1日より施設内の自由通路等が閉鎖になり、通行できなくなっている。

同施設は、建物の老朽化が目立つようになり、耐震性能を満たしていないことや、昨

年6月の大阪北部地震の影響を受け、営業できないままとなっていた店舗もあった。

施設は閉館となったが、2019年5月31日時点で営業継続するテナントは飲食店5店舗、学習塾1店舗、パチンコ1店舗のみとなっている。今後、周辺では千里阪急などを含む再開発が検討されている。



吹田生まれ、20歳の映画監督が撮る 映画「真言アイロニー」のロケ地に協力を

51 歳という若さでこの世を去った真言宗御室派寺院「宝珠寺」の十七世住職・平井尊士(ひらいそんしたかし)氏。住職であると同時に、大学教授でもあった故人のエキセントリックな半生が映画化される。同作品は、映像ディレクターとして活躍する吹田市生まれ20歳の石原ひなたさんが、平井氏の人間

性や生き様に触れ、「彼が遺したものを風化させない」という強い思いから、映画製作へと踏み切った。8月クランクイン予定の同作品であるが、ロケ地が未定の部分があるため撮影場所を探している。主に「居酒屋、その他店舗・店舗前」など。協力可能な方は、メール/kineblast@gmail.com プロデューサー宛まで連絡を。